

発足の経緯

◆ なぜ今東遊園地にリノベーションプランが必要なのか

① 神戸が新たなステージに踏み出していくための様々な計画の中での要請

昨年度相次いでまとめられた「神戸2020ビジョン」、「神戸創生戦略」、「神戸の都心の未来の姿（将来ビジョン）」、「三宮周辺の『再整備基本構想』」いずれにおいても、その具体的取組として東遊園地の再整備、活性化が取り上げられている。

② 国の推進する「新たな時代の都市をつくる緑とオープンスペース」としての位置づけ

先ごろ発表された「新たな時代の都市マネジメントに対応する都市公園のあり方検討会」の最終とりまとめでは、新たなステージで重視すべき観点として「ストック効果をより高める」「民との連携を加速する」「都市公園を一層柔軟に使いこなす」があがっているが、これらいずれもが東遊園地にあてはめ検討すべき方向性である。

③ 老朽化等が進む中で、時代や地域のニーズに合わせた施設の更新、再編が必要な時期となっている

前回の再整備から相当な年月がたち、施設の老朽化、バリアフリーへの対応、利用動線の整理などの課題が顕在化してきている。周辺の道路改修等とも連携し、再整備を行うタイミングでもある。

◆ 社会実験の取り組み

① グラウンドの芝生化

平成27年度は広場の一部（約200㎡）で芝生の生育実験、オープンカフェの利活用の実験を実施した。平成28年度は広場全面（約2500㎡）で複数の芝種、芝生保護材で実験を行い、その結果を検証する。

② にぎわい創出事業

平成27年度は、イベント持込み型で、ホワイトディナー、アウトドアライブラリー、ファーマーズマーケットといった利活用プログラムを実施。それらの結果を踏まえ、平成28年度は、自主事業だけでなく、公募型イベントプログラムのコーディネート等も行う事業者の公募を行った。年間を通じた運営からそれらの効果検証・課題整理を行う。

◆ 検討委員会での検討事項

